

離島への異動希望者がいない！！

～どうする離島地区～

沖縄県立学校事務職員協会八重山支部

発表者：沖縄県立八重山特別支援学校 主 任 宮里 千晴
沖縄県立八重山農林高等学校 事務主事 金城 裕也
沖縄県立八重山商工高等学校 事務主事 佐喜眞 幹史

第1章 はじめに

多くの離島を抱える沖縄県で県職員として採用された以上、離島地区で勤務する可能性はどの事務職員にも同様にあります。

しかし、理解はしているものの、多くの事務職員の本音としては「できれば離島地区勤務は避けたい」「離島地区に勤務している事務職員は経験年数が浅くて、一緒に仕事をすると大変そう…」「いざ住むにしても不便な思いをしそう…」等、離島へのマイナスイメージが先行し離島地区への異動を避けたいと考えている事務職員は少なくありません。

経験年数の豊富な事務職員は離島での勤務を敬遠してしまうため、離島地区には毎年のように新規採用者や臨時的任用職員が赴任してきます。そのため離島地区では採用されて数年の浅い事務職員が大ベテランという状況です。

しかし、事務経験が浅いため、どの業務をこなすにしても後手に回ったり、相談する相手がおらず解決できなかったり…等、1つの仕事をこなすのに多大な時間を要しています。

こういった要因で離島地区と沖縄本島の事務業務の質の差は広がるばかりです。

このままでよいのでしょうか。

そこで今回の研究発表では、経験豊富な事務職員は離島への希望をなぜ敬遠してしまうのかを調査し、離島に対するマイナスイメージを払拭し、離島へ行きたいと思わせる手立てを探ることにより、離島への異動を希望する人数を増やす方法はないのか考えることにしました。

研究発表者のメンバーで話し合った結果を踏まえて、実際に離島地区で勤務している私たちだからこそできる離島の現状やプライベートでの環境、そして私たちが日々どう業務に取り組んでいるか、情報を発信していくことにより、なんとなく嫌だな…と思われる存在からちょっと気になる…そして行ってみたいと思われる存在へすべく、現状の課題と向き合い、私たちの欠点を見直し、離島地域全体の事務業務向上のために研究課題とすることにしました。

第2章 研究方法

いざ研究の目的である「身近に仕事の見本となる経験豊かな事務職員に離島異動をしてもらう」の達成の手立てを考え模索しましたが、離島地区への異動を希望しない原因が、仕事面での不安や問題から生じているのか、そうではなく離島地区での生活に対する不安からなのか。それとも、また別に原因があるのか。そもそも問題の根源はどこにあるのかすら、はじめは見当もつきませんでした。

沖縄本島勤務の事務職員が離島地区をどう思っているのか分からない状態では研究を進めるのが難しいと判断した私たちは、全事務職員にアンケートをとり、幅広く意見を集めることにしました。

また、アンケートをとる際に、新規採用、臨時的任用事務職員が離島地区に集中しているため、経験豊かな事務職員が赴任することで、その職員にかかる負担が大きくなると予想されることから、私たちは離島異動を希望しない理由を私たちが離島で感じている不安と同じ「仕事

面での不安」が一番の要因であろうと仮説をたてました。

そのため、離島地区に対する詳細な意見がくみ取れるよう、アンケートをパターン分けし、離島勤務経験者とそうでない事務職員の差がよりわかるようにアンケートをとりました。

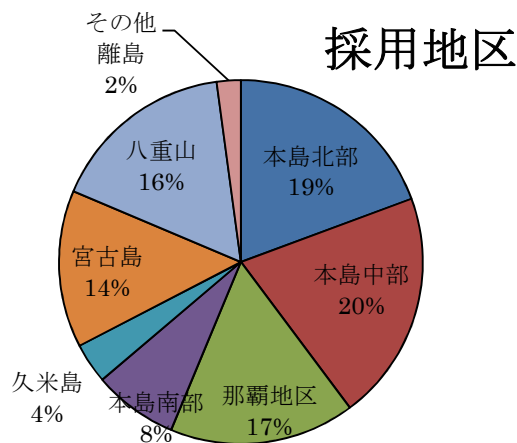
第3章ではアンケートの結果、回答、特に意見の多かったものや印象的だった内容を紹介していきます。

第3章 アンケート集計方法、結果

今回の研究発表をするにあたり幅広い意見を収集するため、沖縄県の事務職員およそ 350 人にアンケートを依頼しました。アンケートの回答に応じてくれたのは 287 人、回収率は 82%です。

アンケートを集計し、まず分かったことは離島で採用される事務職員の多さでした。県立学校 76 校中、離島にある県立学校は高等学校 8 校、特別支援学校 2 校、合計 10 校（全体の 12%）ですが、アンケート結果によると事務職員の 36%が離島で採用になっており、この結果からも異動希望者が少ないために、新規採用職員が配置される傾向が以前からあったと改めて認識することができました。（図 1）

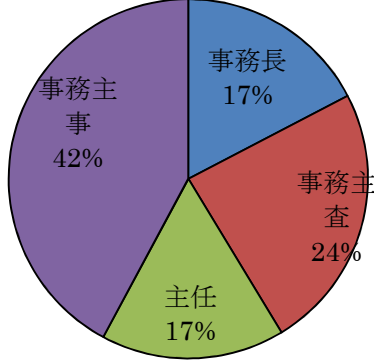
図 1 採用地区アンケート



事務職員全体から見ると、離島での勤務経験のない事務職員は約 42%、その内主任、事務主査の割合は約 40%でした。（図 2）

図 2 沖縄本島勤務経験のみの事務職員職名の内訳

本島のみの勤務経験者 (計121名)



さらに、全員に「離島異動を希望したことがありますか」という質問に対しては、「ない」と答えた事務職員が約 73%と、「ある」と回答した事務職員を大幅に上回っていました。

では、なぜ離島地区への異動を希望しないのか。理由としては以下のようなものが挙がっていました。（図 3，4）

全体的にみると離島に対し、不便さや地域への閉鎖的マイナスのイメージが多いように感じました。

「家族と離れる」や「沖縄本島までの距離」「地元から離れたくない」等、今回の研究発表者である私たちでは解決策が難しい意見も挙がっていましたが、離島というだけでただただ悪いイメージを抱いている意見も少なくありませんでした。

アンケート結果から離島地区勤務経験者と離島地区勤務未経験者では離島に対するイメージに大きな差がありました。

このイメージの差が離島に対する誤解を生み、離島地区勤務を避ける要因となっているのです。誤ったイメージ、偏ったイメージが払拭されれば離島に対するイメージも変わり離島地区への異動希望者が増えるのではないのでしょうか。

図3 離島異動を希望しない理由（生活面）

順位	理由	割合	人数
1	家族と離れる	48%	101
2	交通費(航空運賃等)がかかる	47%	99
3	沖縄本島までの距離が気になる	43%	91
4	知人・友人がいない	40%	83
5	子どもの就学・進学	36%	76
6	買い物するのに不便	26%	54
7	離島の人間関係、近所付き合い	18%	37
8	地元から離れたくない	17%	35
9	観光ならいいが住むのは嫌	16%	34
10	地域の習慣や風習に不安を感じる	15%	32
11	飲み会が多そう	15%	31
12	その他	95%	199

図4 離島異動を希望しない理由（仕事面）

順位	理由	割合	人数
1	新採用、臨任職員が多い	49%	102
2	仕事上の情報が少ない	36%	75
3	異動時の情報が少ない	31%	64
4	沖縄本島にない業務が増えそう	25%	53
5	周りの役職、年齢のバランス	22%	47
6	沖縄本島でもう少し経験を積みたい	20%	42
7	誤った事務処理が多そう	18%	37
8	保護者とのやり取りが難しそう	7%	15
9	職員との人間関係	6%	13
10	職場の雰囲気	3%	7

第4章 離島地区へのイメージと離島の実情

この章では、離島地区勤務の経験がない人が抱く誤ったイメージに対して、離島の状況はどうなっているかを離島地区勤務経験のある人の体験談や実情などを紹介しながら伝えていきたいと思います。

～生活面～

1. 子どもの就学・進学

「離島地区への異動を希望したことがない」と回答した約73%の職員の意見のなかで『子どもの就学・進学』とあげた人が、76人（210人中）もいました。多くの職員が子どもの教育のことを気にしている様子がうかがえます。事実として、主任、事務主査の勤務年数になると所帯持ちも多く、子どもの教育環境を不安視するのは当然のことでしょう。

アンケート結果からみても、沖縄本島から見た離島は、「何もない」、「田舎である」とのイメージがあり、そのため「教育も遅れているのではないか」、「進学などに不利になってしまうのではないか」という不安がここへの数字として反映されているとみられます。

石垣島、宮古島、久米島には大学、専門学校などはないため、地元の子どもたちも高校を卒業すると沖縄本島、または県外の大学、専門学校等へ進学していきます。子どもが高校生の事務職員にとっては子どもと離れて離島異動を考えることは難しいかもしれません。

しかし、離島勤務経験者のアンケートをみると中学生以下の子ども、特に小学校入学前の子どもを持つ事務職員にとってはむしろ離島勤務は都合が良かったという回答が非常に多いです。その理由としては生活圏内に必要な施設が隣接しているため「スマートシティ」のような街が自然と形成されているということです。狭い離島だからできたのでしょう。住宅地、教育施設（保育所を含む）やスーパーマーケット、役所、郵便局、銀行、病院等のほとんどが市街地に建てられているため、日常の送迎や緊急時の迎えなどにすぐに対応できます。

ここで離島勤務経験者の実際の声をいくつか挙げます。

関連する主な体験談（アンケートより抜粋）

○住み慣れた土地を離れるのは心細いが、実際都会より過ごしやすい。特に子育て世代教職員からの評判は抜群にいい。

○沖縄本島出身で、子どもがある程度大きくなるまではずっと離島でも良いかな。

子育て中の事務職員にとって必要な施設が近距離にあるということは、非常に心強いものに思えます。

離島ならではのゆったりとした環境でのびのび育てられるのは好印象のようです。

否定的な意見としては「子育てのサポートが受けられない(親族が近くにいない)」といったものもありました。確かに近くに子どもを預けられる親類の存在がないのは大きな不安要素です。しかし、離島に転勤してくる職員は先生方も含め小さい子どもを持つ親が多いため、子育てに対し不安等があれば相談する相手は意外にも多いようです。

離島ではコミュニティが狭いため、保育園・幼稚園などに子どもを預けると、同じ職場の職員や近隣校の職員と預け先が同じというのはよくあることで、そこから同じ境遇の人同士つながりができ、情報交換も頻繁に行っているようです。アンケートの回答の中には、「子育てで手がかかる」、「子育てが不安」という声は少なくありませんでしたが、人との繋がりができやすい離島地区の環境は、子育てに不安な人や相談相手が欲しいという人には逆にうってつけな環境となっているようです。

肯定的な意見はこれだけではありません。子どもと一緒に自然の中で遊ぶようになったという声もあります。

離島地区は沖縄本島のように映画館や遊園地のような娯楽施設は少ないですが、子どもに悪影響を及ぼすような場所もありません。娯楽施設がないということは、必然的に豊かな自然環境を生かした遊びになります。離島は、海水浴、シュノーケル、川下り、トレッキング、釣りなど自然を生かした遊びには絶好の場所であり、沖縄本島では身体を動かさなかった人も、アウトドアに目覚める人も少なくありません。週末の度に親子で山登りに行ったり、島内を自転車で観光したり、釣りをしているという職員が多く、離島に赴任したことで親子一緒に遊び、身体を動かすきっかけができたという職員も多くいます。子どもを伸び伸び生き活きと育てるには非常にいい環境です。また、自然を使った遊びはお金をあまり使わないですむため、子育て中のお父さん、お母さんの財布に優しいのも嬉しいことではないでしょうか。

離島・へき地の教育は、「へき地教育振興法」に基づいて、教育の機会均等を国が進めており、離島地区も沖縄本島と同じように教育を受けることはできることになっています。離島地区でも沖縄本島同様、難関大学や医学部へ進学している生徒もいます。

関連する主な体験談（アンケートより抜粋）

○学校行事も地域ぐるみ感があり、アットホームな雰囲気。住宅、勤務先、子どもの学校、保育園等が近距離で良かった。

- 保育所の行事で豊年祭など地域の祭りに参加した。
- 家族にとって青い空、青い海、豊かな自然や島文化の体験は一生の宝だと思います。特に子ども達へ良い影響があったと感じています。
- 離島は生活圏が近いので、小さい子がいても生活しやすいです。勤務年数3年であれば楽しく勤務できると思います。
- 子どもが小さかったので、勤務後すぐに海へ遊びに行ったり、家族の時間がたっぷり持てた。
- 温かく迎え入れていただき、また仕事の面でもサポートしてもらい、生活面でも便利で子育てもしやすくてとても良い環境だと感じた。
- クリスマスの際は、職員数名が仮装をして子どもがいる職員の家を回ってプレゼントを配った（職員の子とも達とも仲良くなれた）。
- 治安がいいので犯罪、事件等もあまりなく、子どもを育てるにはかなり良い環境。子どもに悪影響な場所も少ない。
- 生活の本拠地外での勤務は確かに大変だと思うが離島の良さである「ゆったりした時間」は子育てに！趣味に！と有効活用できる。

2. 友人、知人がいない

「離島異動を希望しない」理由の実に83人(210人中)の事務職員が「友人、知人がいない」と回答を得ました。

初めて赴任するという事務職員が圧倒的に多いため、新たな地への不安が大きく、特に親しい友人がいない状況は歓迎されるものではありません。沖縄本島のように陸続きではなく、海を隔てての異動になるため、友人・知人と離れてしまうというのは誰しも気にするところの1つでしょう。

仕事で悩んでもすぐに相談できる気の置けない仲間がいないことや休日に一緒に過ごせる友人がいないことはストレスにもなりうる上、寂しさを感じてしまうかもしれません。しかし、友人、知人を一緒に離島に連れてくるわけにはいきません。全員が全員初めから離島に友人、知人がいたわけではありません。むしろ知り合いがいない学校職員のほうが圧倒的に多いですが、離島勤務経験者の体験談を聞くと勤務経験のない事務職員の不安をよそに、離島でのプライベートを楽しんでいる回答が多く寄せられました。

関連する主な体験談（アンケートより抜粋）

- 事務職員と旅行の積み立てをして県外へ旅行したり、週1で交流会ができた。

- 十五夜には職員 30 人ほどで観光地の灯台で月見会をしたり、魚の追い込み漁をして BBQ をしたり、週に 2 回は体育館でバレーボールやバドミントン、フットサルをしていた。事務職員、教員、管理職関係なく全職員仲が良く、お互いの家で飲み会もしたりしました。
- 自分の学校のみならず近隣校の先生方とも仲良くでき、スポーツや飲み会、ビーチパーティ、ダイビング等が頻繁に出来たのでとても楽しかったです。
- 地元の職員が、生活面でのサポートをしてくださった。
- 離島ならではの行事が多数あり、職員で参加したり楽しい思い出ばかりです。
- 地元勤務の職員からお祝いごとに招待されたり楽しく交流できた、年齢の近い職員との交流が多かった。

上記のとおり、職員同士で交流を深めている事務職員が大変多いです。

離島へ赴任後はほとんどの職員（教員を含め）が同じような環境、そして近い世代が必ずいるため、急速に仲を深めているようです。中には離島勤務で仲良くなった職員と今でも交流が続いていたり、その数年だけでなく、今でも親しい関係を築いている事務職員もいます。

第 2 章であげられた不安のなかで飲み会が多そう（31 人）という回答もありました。事実、沖縄本島で勤務しているときよりもそういった交流会は多いかもしれません。

離島地区も沖縄本島もどちらも勤務経験がある人のアンケートをみると、実際、飲み会は多いという声は多いです。しかし、その点に関しては否定的な意見より、むしろ肯定的な意見が多いことが分かりました。普段あまり関わることもない職員とも話す機会ができるため、飲み会をきっかけに打ち解け、仲良くなり、飲み会が好きな人だけでなく、苦手な人からも意外にも肯定的にとらえられている場合が多いようです。

このように離島へ異動希望をしない理由の「友人・知人がいない」と「飲み会が多そう」という理由は全く異なるモノですが、密接な関係があることに気付くのではないのでしょうか。「友人・知人がいない」という不安要素は、別の不安要素としてあがっていた「飲み会が多い」ことで、意外にも解決の糸口になっているようです。

離島地区は良くも悪くも人と関わる機会は多くあります。勤務先の学校だけでなく、近隣校と交流する機会もあります。沖縄本島のように、遠くから出勤してくる職員がおらず、学校近辺に住んでいる職員が多いため、集

まりやすく交流しやすい環境になっています。まわりと交流する機会はたくさんあるので、自ら積極的に参加することでいくらかでも友人をつくることは可能です。

また、離島で出会い、そのまま結婚したという職員も多いようです。

離島地区へ異動するにあたって友人・知人がいないことはあまり心配することはないように思えます。離島勤務をしてしまえば、この問題は案外とあっさり解決することがほとんどなので、安心して離島に来てほしいです。

3. 家族と離れる

離島異動を希望しない理由のひとつに「家族と離れる」とあります。確かに家族と離れることはつらいことです。しかし、一生離れる訳ではありません。全ての家事を自らこなし、生計を立てて生活していくことは決して楽ではありませんが、これもまた自分自身を成長させることになるでしょう。

家族と離れてみて改めて家族のありがたみを知ることができ、離れることがマイナスととらえるのではなく、離れてみて家族の新たな一面を発見できる機会と考えてみてはいかがでしょうか。

4. 沖縄本島と離島間の交通費について

「離島異動を希望しない」の理由として「航空運賃などの交通費がかかる。」と挙げた人は、希望したことはないと回答した事務職員の 99 人（210 人中）いました。希望したことの無い人の 2 人に 1 人は、沖縄本島と離島間の移動に飛行機を利用しないという訳にもいかず、その航空運賃がかさむことを気にしている様子が見えます。

そもそも沖縄本島と離島間では、航空運賃がどれくらいかかるのか。沖縄本島への出張が約 1 か月前あたりに決まり、出発の 1 か月前に早割を利用して航空チケットを購入するものとして比較すると次のようになります。

図 5 沖縄本島と各離島間の航空運賃（片道料金）

沖縄本島—久米島	8, 0 0 0 円前後
沖縄本島—宮古島	7, 0 0 0 円～8, 0 0 0 円前後
沖縄本島—石垣島	7, 0 0 0 円～8, 0 0 0 円前後

※ 2 月発の飛行機を 1 か月前の 1 月に購入したものとする。

オフシーズンなどの最安値の場合（那覇－石垣間）、5、000円台になることもあります。

搭乗する時間帯や、繁忙期などにより多少金額に差はあるものの、概ねこのような金額になります。飛行機の本数もJAL、ANA合わせて、片道だけで那覇－宮古が15便、那覇－石垣が18便あり、午前7時から午後8時まで1時間に1便の間隔で飛んでいます。

那覇市から名護市まで移動時間は渋滞なしで高速道路を利用した場合約1時間10分、石垣島から那覇市までの移動時間は1時間、宮古島から那覇市は50分、時間的には石垣島・宮古島の方が名護市より那覇市に近いことになります。

出張では旅費が出ますが、私用で帰省する際には沖縄本島に住んでいれば必要のない航空運賃が発生することを負担に感じる人もいるでしょう。

しかし、心配することはありません。離島地区に勤務すると、離島に住むことにより被る不利益などを補うために離島勤務手当等があります。離島勤務をするにあたって最大のメリットともいえる離島手当とはこういったもののなか説明していきます。

5. 給与手当面でのメリットについて

離島勤務者へは、総称して離島手当と呼ばれる手当が支給されます。県立学校に勤務する職員に対しては、①**特**地勤務手当と②**特**地勤務手当に準ずる手当があります。小・中学校に勤務する職員に対しては、へき地手当とへき地手当に準ずる手当で区別されています。

①**特**地勤務手当とは・・・離島や生活に不便な地（人事委員会で定める地）で勤務する場合、その勤務する間支給される手当です。生活の不便度に応じて6級地から1級地まで定められています。

図6 級別区分と支払割合

特種地区別	6級地	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地
支払割合	12/100	10/100	8/100	6/100	4/100	2/100

特

＝特

特

異動又は公署の移転等の日に受けていた(給料+扶養手当)の月額×1/2+現に受ける(給料+扶養手当)の月額×1/2

例) 石垣（3級地 支給割合 12/100）に赴任して2年目の職員の場合

赴任した時の給料 210,000 円、現在の給料 220,000 円、扶養手当 13,000 円

特

＝{ (210,000 円+13,000 円) ×1/2+ (220,000 円+13,000 円×1/2) ×12/100
＝27,360 円

大まかに言うと月の給与が3級地だと給与の12%程度手当が支給されることになります。

②**特**地勤務手当に準ずる手当とは・・・離島や生活に不便な地（人事委員会で定める地）に勤務するにあたり、住居を移転した者に支給される手当です。異動に伴って、住居を移転した日から支給されるもので、6級地から3級地までが6%、2級地、1級地が5%となっています。

支給期間

職員が異動等に伴って住居を移転した日から、異動等の日から起算して3年（当該異動等の日から起算して3年を経過する際人事委員会の定める条件に該当する者にあつては、6年）に達する日まで。

支給額

異動又は公署の移転の日（以下「異動等の日」という。）に受けていた(給料+扶養手当)の月額×支給割合

図7 異動等の日からの期間及び級別区分

異動等の日からの期間			支給割合
異動等の日から起算して1年に達するまでの間	特種地区	6級地～3級地	12/100
	準特種地区	3級地、2級地	6/100
1年に達した日から3年に達するまでの間			6/100
3年に達した日			2/100

例) 石垣（3級地 支給割合 6/100）に赴任して2年目の職員の場合

赴任した時の給料 210,000 円、扶養手当 13,000 円

特

＝(210,000 円+13,000 円) ×6/100＝13,380 円
大まかに言うと月の給与が3級地で赴任して3年間は

給料の6%程度の手当が支給されます。
特勤手当と特勤手当に準ずる手当合わせると給料の約18%程度の離島手当が支給されます。

例に挙げた職員の場合、年間で離島手当が年間で488,400円支給されることになります。

※特勤手当に準ずる手当は異動に伴い特勤に赴任した職員に支給される手当なので、元々特勤に居住があった場合は支給されません。

③単身赴任手当

離島手当以外にも単身赴任手当のように離島に勤務することにより支給要件をみたし支給される可能性がある手当があります。

単身赴任手当の支給要件と支給額は以下のとおりになります。

支給の要件

公署を異にする異動又は在勤する公署の移転に伴い、転居し、やむを得ない事情により、同居していた配偶者と別居し、単身で生活することを常況とし、距離制限（60km以上）を満たす職員。

手当の対象となる単身赴任は、異動・移転に伴うものであることが必要で、採用、研修、出張等は、異動・移転には含まれません。異動・移転に伴い転居することが必要になってきます。

転居は必ずしも異動・移転と同時に進行される必要はなく、異動・移転後一時異動・移転直前の住居から通勤していた場合も、通常、異動・移転から1月以内に転居したような場合は、異動・移転に伴う転居と認められます。

別居について

同居していた配偶者（届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。以下同じ。）と別居することが必要であり、異動・移転前に既に配偶者と別居していた場合は対象となりません。

やむを得ない事情により配偶者と別居したことが必要になってきます。この場合の「やむを得ない事情」とは、別居のときに次のaからeの事情があります。

- a 配偶者が疾病等により介護を必要とする職員・配偶者の父母又は同居の親族を介護すること。
- b 配偶者が学校その他教育施設に在学する同居の子を養育すること。
- c 配偶者が引き続き就業すること。
- d 配偶者が自宅(人事委員会の定めるこれに準ずる住宅を含む。)を管理するため、引き続き自宅に居住すること。
- e その他配偶者が職員と同居できないと認められるa

からdに類する事情

支給額

単身赴任手当の支給額

26,000円 + 加算額

加算額

加算額は、職員の住居と配偶者の住居（配偶者のない職員については子の住居）との間の交通距離が100km以上の職員について、交通距離に応じて、次の額となります。

図8 距離に応じた加算額

交通距離	加算額	
	単身赴任手当	加算額
100km以上 200km未満	26,000円	4,000円
200km以上 300km未満	26,000円	5,000円
300km以上 400km未満	26,000円	6,000円
400km以上 500km未満	26,000円	7,000円
500km以上 700km未満	26,000円	8,000円
700km以上 1,000km未満	26,000円	9,000円
1,000km以上 1,500km未満	26,000円	10,000円
1,500km以上 2,000km未満	26,000円	11,000円
2,000km以上	26,000円	12,000円

例) 沖縄ー石垣の場合

区分（500km以上 700km未満）

単身赴任手当＝26,000円＋20,000円＝46,000円

上記のように離島地区に赴任すると、様々な手当等があるため、交通費（航空運賃）に対する不安は多少解決できるのではないのでしょうか。

離島特別昇給について

離島に勤務すると定期昇給とは別に、離島特別昇給があります。離島に勤務することで1年目に2号給、2年目に1号給、3年目に1号給。離島特別昇給は3年で合計4号給付与されます。例えば、同じ号給の行政職1ー15の職員が2人いるとします。ひとは離島勤務、もうひとは本島勤務とすると下の表のように3年後には昇給に4号給差がつきます。

図9 離島特別昇給の例(行政職1級15号級の場合)

	離島特別昇給	定期昇給	離島特昇有り	離島特昇なし	号給差
1年目	2	4	1-21	1-19	2
2年目	1	4	1-26	1-23	3
3年目	1	4	1-31	1-27	4

離島に3年勤務することで離島勤務のない職員に比べ1年（4号給）早く昇給することになり、離島採用で離島特別昇給をした職員と離島経験のない職員では退職するまでに約400万円程度、生涯所得に差がでます。

6. 買い物をするのに不便ということについて

「離島異動を希望しない」の理由として「買い物をするのに不便」とあげた人が、54人（210人中）いました。希望したことのない人の4人に1人は、離島地区の買い物事情のことを気にしている様子がうかがえます。沖縄本島からみた離島は、「離島はなににもない」、「田舎である」ことのイメージがあり、スーパーマーケットやコンビニエンスストアがほとんどないと思っている人も多くいるようです。沖縄本島の生活に慣れている人にとっては、離島地区に異動し生活が不便になることがどうしても不安に思ってしまうようです。

しかし、普通に生活するうえでの、食材や生活必需品の購入は意外に思われるかもしれませんが、「離島は便利である」と回答する経験者が大変多かったです。

理由は前にもあげたとおり、生活圏内にスーパー等が密集していることにあります。

沖縄本島でもよく目にするスーパーマーケットやコンビニエンスストアはもちろん、リゾート観光地ですので、カフェや居酒屋等も大変充実しています。一人暮らしにはもちろん家族でも気軽に外食ができます。

また、100円ショップやリサイクルショップ、ディスカウントショップもあるため、生活必需品をそろえるのに苦労はしないでしょう。

最近ではインターネット回線も改善しており、ほとんどの買い物はインターネットで行うことができます。

上記のとおり、インターネットを使用すれば流行のものも購入できますが、地元の商店にもぜひ足をのばしていただきたいです。例えば石垣では「おにささ」といったテレビでもとりあげられたローカルな食べ物が販売されていたり、商店のおばさんと「ゆんたく（おしゃべり）」ができたりと、地元の空気を直接感じる事が出来ます。より近い距離感で買い物ができる商店は現在では大変少なくなってしまったので貴重な体験ができるのではないのでしょうか。

今回、離島地区にあるスーパーマーケット等を図10にしてみました。離島に行ったことがない人は意外な充実ぶりにびっくりするのではないのでしょうか。

那覇市のような都市部には敵いませんが、沖縄本島の

市町村と比べてもこれほど充実した商業施設が揃っている所は多くはないでしょう。

離島地区でも、生活に不便をきたすほどのことはほとんどないので、安心してください。

ただ台風などで、輸送船が欠航している時などは、生鮮食品などが不足することが度々あります。

図10 離島地区の主な商業施設

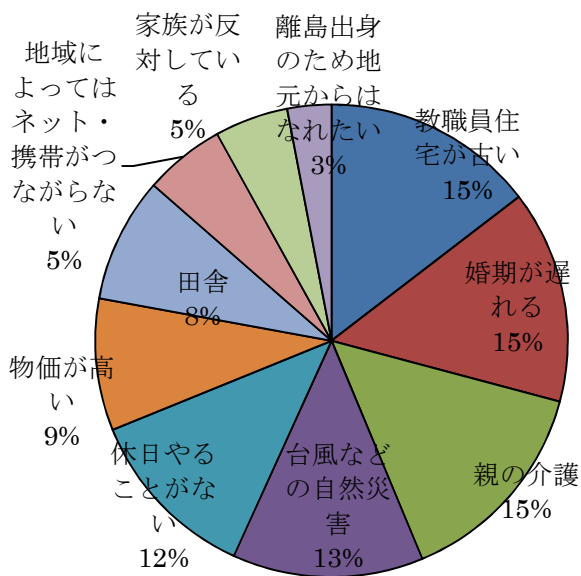
久米島	Aコープ（農協系列） 個人商店(共同売店)、ココストア ベスト電機 家具屋
宮古島	サンエー、かねひで、マックスバリュ ココストア、ファミリーマート 個人商店(共同売店) ヤマダ電機、ベスト電器 ビッグ1、ドンキホーテ、メイクマン TSUTAYA、ゲオ マクドナルド、ケンタッキー モスバーガー、A&W ファッションセンターしまむら、西松屋
石垣島	サンエー、かねひで、マックスバリュ ココストア、ファミリーマート 個人商店(共同売店) エディオン、ベスト電器 ビッグ1、メイクマン、雑貨屋 TSUTAYA、ゲオ マクドナルド、ケンタッキー モスバーガー、A&W ファッションセンターしまむら、西松屋

7. 田舎、休日の過ごし方

「田舎」、「休日の過ごし方」は第3章でその他に含まれていた意見です。

その他の意見の大まかな内訳としては、図11のようになっています。

図 1 1 図 3 のその他の内訳



約 20%の事務職員が離島は田舎で休日の過ごし方に困るのでは…といった不安を抱えているようです。

沖縄本島のようにウインドウショッピングができる商業施設や映画館、水族館等はありませんが、「せっかく離島にきたのだから」と、沖縄本島にいたころに手を出してこなかったアウトドアなどに積極的に活動しているようです。

特に海に関連したレジャーに行くことが多く、バーベキューや釣り、潮干狩りなどをして、離島のきれいな海に癒されているようです。

もし、この発表で離島に対するイメージが改善され、少しは離島勤務に興味が出てきたのであれば、ぜひ離島でしか味わうことのできないアウトドアの遊びを体験していただきたいです。

関連する主な体験談（アンケートより抜粋）

- 自然豊かで、海もきれいなので、ダイビングもできたり、アウトドアにも目覚めた。
- スキューバのライセンスがとれた。
- 地域の伝統行事が素晴らしい！それまで全く興味がなかったが、離島に来て、その面白さに気づいて、よく見に行った。
- 離島にきたら海ということで初めて釣りを体験した。
- 離島勤務期間は仕事以外の時間も長くあったので、バスケット、バドミントン、ランニング、書道など多くの趣味を楽しんだ期間でした。

○離島に行って、初めて船釣りを体験し、はまってしまった。帰省してからは全くやってない。

○休日や夕食等、職場のみんなであれこれ企画して楽しむことができたり、地元出身の職員に誘われ自宅に遊びに行ったり、地域で行われている珍しい行事に参加できたりと貴重な経験ができた。

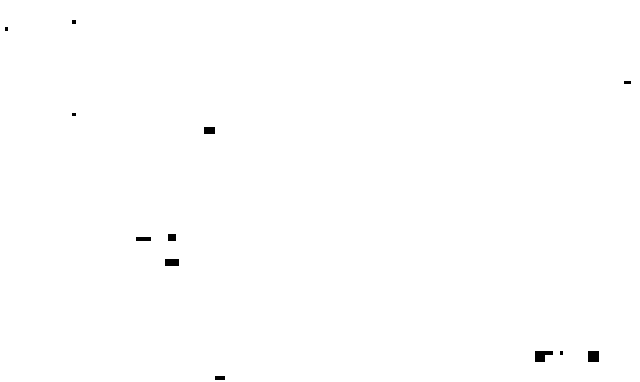


石垣・宮古地区情報交換会

8. 離島の住宅環境

今回のアンケートで「離島勤務者が増えるにはどうすればいいと思うか」という質問に対し、「職員住宅の充実」を挙げる職員も多くいました。このことから離島勤務において経済的負担の少ない職員住宅は大変重要なものと分かります。

図 1 2 八重山地区赤生住宅の間取り





八重山地区赤生住宅の外観

気が高いようです。離島勤務を希望するにあたって職員住宅に「住む」か「住まない」かは大きな分かれ道になると思います。

教職員住宅に入居すると、その地区の学校間で1年ごとに当番校が決められます。当番校はその年の教職員住宅の行事計画（4回程度の草刈り、食事会）や共益費の徴収（管理）を行います。全員参加の草刈り終了後にはかき氷が振る舞われたりします。食事会などで他校の職員と交流し親睦を深めることもできます。

アパートの状況

宮古島：新築、築浅の物件が市内に多数有り、家賃も手頃。

石垣島：沖縄本島に比べて家賃が割高。

1DKでも家賃が50,000円だったり沖縄本島の同程度の部屋と比べ、家賃が割高な部屋が多い。空き物件自体少なく、探すにはそれなりの労力を費やす必要があると思われます。

不動産業者の話によると、近年の石垣島でのアパート不足は尖閣諸島の領海警備を強化する海上保安庁職員690人が配備され、海上保安庁職員とその家族の住居のため、石垣島全体でアパートが不足しているようです。平成28年2月に海上保安庁の宿舎が完成予定なので、部屋不足は以前に比べ解消される見込みです。しかし、先島諸島（宮古島、石垣島等）では陸上自衛隊の配備計画があり、それによりまた部屋不足に陥る可能性があります。

離島情報：住むのにお勧めの地区

宮古島編

- ・平良地区：住めばどこにでも近いので困らない。台風で停電することも少ない。新しい賃貸物件も多いが宮古島の他の地区に比べ家賃が高め。
- ・西里地区：飲み会好きなら飲食街繁華街が近くにあるので便利。
- ・下里、東仲宗根地区：平良地区と同様に住めばどこにでも近いので困らない。台風による停電も少ない。
- ・松原地区：イオン、病院、書店等が近くにある。

現在、離島地区には教職員住宅が整備されています。赴任前に各学校の担当事務職員が赴任予定者に入居希望の確認をとることになっております。募集をかけると毎年供給以上の入居希望者が集まり、入居者の選定を行うほどです。入居の可否については世帯状況（単身赴任、世帯人数）、収入状況、赴任移動距離など総合的に考慮し入居者が選定されます。

教職員住宅の状況は築年数40年が平均的であり、間取りは1K～3LDKと幅広くあります。今後、職員住宅の耐震対策と同時に、改修工事を行うという話もあります。

教職員住宅のメリット

- ・家賃はそのほとんどが同じ地域内にあるアパートよりも大幅に安い。
- ・敷金、礼金、家賃3ヶ月分前払いなど初期費用が一切ないため、経済的負担が少なくてすむ。

関連する主な体験談（アンケートより抜粋）

○離島に身内がいなかった初めての妊娠、出産、育児で不安だらけでした。教職員住宅の先輩お母さんからいろいろ教えてもらい助かりました。育休中も同じ境遇のお母さん同士、情報交換をしたり、愚痴をこぼしたりして息抜きができ非常に助かりました。

教職員住宅のデメリット

- ・古さが目立つ棟が多い。
 - ・古い建物のため不具合がある箇所が多い。
 - ・プライベートがない。
- 土地勘のない地域への異動のため、古くても、家賃が安く、同じ職場の人がいて安心して住める職員住宅は人

- ・久松地区：伊良部大橋のたもと、伊良部大橋開通に伴い新築の賃貸物件が多数あり。車の交通量も少なく静か。

平良、下里、西里、東仲宗根は飲食街・繁華街まで近く徒歩圏内です。ここであげたどの地区もスーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、病院、空港からも近いです。

石垣島編

- ・真栄里、大川、平得、登野城地区(東部)：各県立学校に近く(徒歩圏内)、付近になんでもあり非常に便利だが、建物が密集している。繁華街にも近く、飲み会時などは便利。教職員住宅もこの地区にある。
- ・大浜地区：近くになんでもある便利な住宅街、上記の真栄里、大川、平得、登野城地区(東部)より建物が分散しており、ゆったりしている。空港まで20分程度。
- ・白保、宮良地区：市内から離れているが空港には近い。ため、頻繁に帰省する人にはお勧め。とても静かでのどか、近所の子も達が走り回っている。八重山地区の県立学校からは多少遠い(車で15～20分程度)が八重山特別支援学校に近い。台風が来る度にほぼ毎回停電する。
- ・新栄町、浜崎町、新川地区：飲食街・繁華街に近い。台風による停電もしにくい。市役所、離島ターミナルはこの地区にあります。

～仕事面～

1. 沖縄本島にない仕事が増えそう

離島ということで発生する仕事は以下のとおりになります。

- ① 特勤手当は赴任した4月に認定した後は毎月行う作業は特にありません。
- ② 特勤手当に準ずる手当は毎年4月に勤務年数を確認し、支給割合を変更する作業を行うだけで、特に毎月行う作業はありません。
- ③ 単身赴任手当
- ④ 宿日直手当。石垣島では各県立学校に学寮があるため、土日祝祭日の宿日直手当の支給。
- ⑤ 赴任旅費の支給

⑥ 職員住宅の歳入業務

離島のための仕事としたら①特勤手当、②特勤手当に準ずる手当の認定です。③～⑥に関して言えば、離島ではなくとも沖縄本島でも学校によっては該当する業務だと思います。

離島ではどの県立学校からも年金事務所、ハローワーク、銀行、郵便局は車で10分圏内にあり非常に便利です。年金事務所、ハローワークも空いていることが多く、ほとんど待ち時間はありません。

事務分掌に関して言えば沖縄本島と大して変わりはありません。

逆に旅費に関して言えば、交通費との調整がない分沖縄本島より煩雑さは少なく済むと思います。(宮古、石垣のほとんどの職員の出張が 住居：石垣市A(宮古島A)、出発地(学校)：石垣A(宮古島A) ⇄ 用務地：石垣A(宮古島A))

強いて仕事面で困ることと言えば、備品や施設の修繕業者、取扱業者が少ないことと部品の取り寄せに時間がかかるため、修繕に時間を要するということが多いです。

2. 『新採用・臨時的任用職員が多い』、『仕事上の情報が少ない』

仕事面においては、「新採用・臨時的任用職員が多い」、「仕事上の情報が少ない」といったことに不安を感じている人が多いようです。

実際、離島地区の事務職員も同じようなことを感じており、その不安を解消するために離島地区では様々な研修を行っています。

1つは事務分掌担当ごとに地区研修を行っています。例えば、八重山地区の給与担当者は下記の図13のような研修を行っています。

図13 研修時期と内容

研修の時期	研修内容
5月	期末勤勉手当について
8月	手当の事後確認について
11月	年末調整について
2月	異動関係書類 年度末年度初めの事務処理

その他にも歳出、歳入、旅費など担当ごとに日々の業

務で疑問に思ったことなどを持ち寄り地区研修を行っています。しかし、離島地区の場合、経験の浅い者同士の研修になってしまい、日々の疑問が解決しないまま、次回に持ち越しになってしまうことも多々あります。そのため次のような研修が非常に役立っています。教育庁主導（主催）の『離島地区県立学校職員執行体制強化研修』です。夏季休業期間を利用して、沖縄本島に研修に行き、教育庁での研修、沖縄本島の地区研修会への参加、沖縄本島の学校での実地研修などを行います。後日、研修を受けた者が地区に戻り、研修に使われた資料を配り、研修内容をまとめ、報告会を行うなどして離島地区全体のレベルアップを図っています。

宮古地区では実務研修として、様々な校種の学校に訪問し、書類や事務処理方法等を見せてもらい、日々の業務で疑問に思っている事や、処理に困っている事項などを教えてもらうなど、沖縄本島で得た情報、学んだ事務処理方法を離島へ持ち帰り、地元職員へ還元する形での研修を行っています。このような事務研修は経験の浅い事務職員にとってはとても有意義なものとなっています。

離島地区の研修の中には業務上の研修とは別にユニークな研修を行っている地区もありました。八重山地区では休日などを利用して事務職員が八重山の文化・自然・風土に触れる研修の一環として、沖縄で一番高い山・於茂岳登山を行いました。沖縄本島とは異なった離島独自の自然に触れると同時に事務職員の親睦を深め、繋がりも強くなり、離島地区の良さ楽しさ体感できる良い研修になっています。

第5章 実際に勤務して分かった悪い面、困った事

前章では、離島の誤ったイメージ、偏ったイメージに対して離島の実情を紹介してきましたが、ここでは離島勤務経験者の体験談から実際に勤務しないと分からない悪い面、困った事の情報を提供したいと思います。（回答者の意図を損なわないように記述部分をそのまま記載しています）

- ・離島在住の本務、臨任職員、非常勤職員を含め長年同一校勤務の方がいるため業務の改善が難しい。
- ・土日でも島の地域行事に参加しないといけない。
- ・取引業者が限られる、取引業者が少なく競争がない。

- ・台風するとき、目の前で自動車が風で動いたり、アパートの窓ガラスが風圧で変形しているのを目撃し生命の危機を感じました。暴風域を抜けた後も3日間停電し、断水しました。
⇒食料の確保、停電・断水をしやすい地区に住んでる方は湯船に水を溜めて生活用水の確保など台風対策をして下さい。
- ・久米島には久米島高校しかなく、領収書や納付書などの用紙を切らした時困った。
- ・台風時は毎回打ち雨し、昼までびしょ濡れでした
⇒教職員住宅ではよく聞かれた意見。事前に住んでる人に聞いて対策（目張りする等）が必要です。何も知らないと大変かもしれません。
- ・学校職員としての地域の関わりと、個人としての関わりの境目がなく、少し窮屈な面がある。（離島採用本島勤務）
⇒コミュニケーションをとることも大切ですが、無理して参加する必要はありません。
- ・八重山は暑くて紫外線により腕にシミができた。紫外線や塩害による車の損傷が激しい。
⇒離島は、沖縄本島よりも気温は高いので、日焼け対策は必須です。車も中古車がいいでしょう。
- ・業務時間外に外出すると高確率で、知り合いの職員、勤務先の生徒に出くわす。
⇒ほとんどのスーパーマーケット、コンビニエンスストアで生徒はアルバイトしているので、出会いたくないのであれば夜に出るしかないでしょう。
- ・あまりにも湿気が多く、隣の部屋ではカビ、キノコ？が生えていた。
⇒暑いだけでなく、湿度も高いので、除湿機は購入、持ってきた方が良いです。
- ・台風が来ると物資が届かなくなり不便である。
⇒離島にとって台風は死活問題です。缶詰、ラーメンはもちろん水やある程度の食料品は台風接近がわかった時点で買わないと売り場から消えるので注意が必要です。
- ・病院数が少ないため選べない。
⇒沖縄本島と比べると少ないので、地元の職員に聞いた方が良いでしょう。専門科は沖縄本島に通うしかありません。
- ・台風時の教職員住宅は雨漏りがすごかった。
⇒4月、5月ごろであれば住宅供給公社に電話して比較的対応してもらえるため、前に住んでいた方にどこが

修繕が必要かを聞いていた方がいいかもしれません。

- ・台風の際に沖縄本島から帰れなくなり、2日も余計に休みをとる羽目になってしまいました。
⇒自然災害なので割り切るしかありません。

上記の体験談からも分かるように、実際に離島地区に勤務してみないと分からない事が多々ありますので、興味を持たれた方はお近くの離島勤務経験者に聞いてみるのもいいかもしれません。

第6章 おわりに

離島地区の現状として、配属される事務職員の経験不足、力不足が問題点として挙げられます。この問題は常々言われてきたことであり、その状況を改善するため、研究テーマとする事となりました。

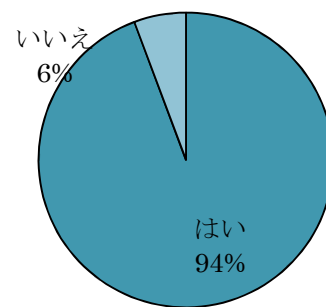
研究を進める上で私たちは、「離島地区勤務の事務職員の力不足のために業務を頼られてしまう…」 「余計な業務が増えるのではないか」といった仕事面での理由で経験豊富な事務職員が離島地区の勤務を敬遠するのだと仮定し、アンケートをとって来ましたが、実情は少し違いました。

もちろん、私たち離島地区の事務職員の経験不足に対する不安をあげる意見もありましたが、一番にあげられたのは「仕事面に対する不安」よりも「生活面に対する不安」でした。この不安は実際に異動した私たちも当初は持っていたものの、アンケートの回答があるまではこの不安は要因として大きいものとして考えてはいませんでした。なぜなら実際に生活すると「生活面に対する不安」ほとんど感じることなく、むしろ快適に思うほどで、その不安は杞憂であったと実感していたからです。

第3章で紹介したケースはマイナスイメージを一部ピックアップしたものでありますが、そのほとんどが行ったことのない土地故にどうしても不安要素としてあげられるものでした。特に家庭を持つ世代となる事務職員にとっては異動を敬遠してしまうのも仕方のないことなのかもしれません。

しかし、実際に離島での勤務を経験した、もしくは経験している事務職員へのアンケートで、「離島勤務を経験して良かったですか」という質問に対し、158人のうち149人が「経験してよかった」と回答していました。

図14 離島に勤務して良かったですか？



上記のように回答した事務職員のほとんどが異動前の離島に対するイメージは決して良いものではありませんでした。最初はイメージがよくななくても、いざ住んでみると楽しかった経験、良い経験として語ってくれています。このことから、私たちの離島勤務者からの情報発信不足を強く感じました。

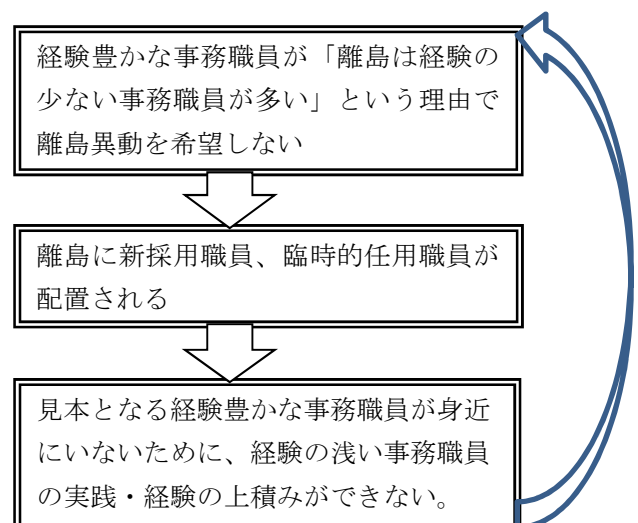
アンケートの中には家族の問題や沖縄本島までの距離、航空運賃等私たちではどうすることも出来ないものがありました。

しかし、「離島」というだけで抱かれる誤ったマイナスのイメージや偏ったイメージを解消し、正しい情報の発信が離島勤務希望者を増やす可能性に繋がるのではないかと今回の研究を通じて感じる事が出来ました。

また、仮説のとおり、「離島地区に勤務する事務職員の経験の少なさよりくる不安のため異動しない」といった意見もあがりました。

実際に事務職員としての仕事の質の差は沖縄本島と比べ劣っている面があると思います。

図15 負の連鎖



現在、図15のような負の連鎖ができあがっており、良くない状況になっています。この連鎖を断ち切るためにも経験豊かな事務職員が離島には必要になっています。経験不足をその理由として挙げてきましたが、同じ業務をこなす以上、地域によって差が出ることは望ましいことではありません。経験者のようにスムーズにいかずとも、法に則り正しい業務に努めることは事務職員として採用された以上は当然のことです。私たちは少し現状に甘えていたのではないのでしょうか。後述しますが、アンケートで様々な意見が出てきて改めて私たち自身、日々の業務に対する取り組み方を見直さなければならぬように感じました。

しかし、やはり同じ事務室内に見本となる経験者がいた方が、事務職員としてより良い経験を積める事は事実でしょう。

業務を教わるだけでなく、幅広い経験層の事務職員と課題や悩みを共有することにより確実に新たな解決の糸口をつかめる、プロセスを学ぶことは大きな利点です。経験の浅い事務職員はどうしても偏った見方、視野の狭い見方をしてしまい、経験豊富な事務職員と比べ行き詰まることが多くなってしまいます。その時に実際に多くの実務をこなしてきた先輩が助言をくれる、または新たな視点を提供してくれる事は大変重要な事です。

離島勤務経験者に沖縄本島と離島との「違い」、「差」を聞いた時に多くの意見が挙げられており、それが「採用が離島ではなく沖縄本島採用で良かった理由」へ繋がると感じました。

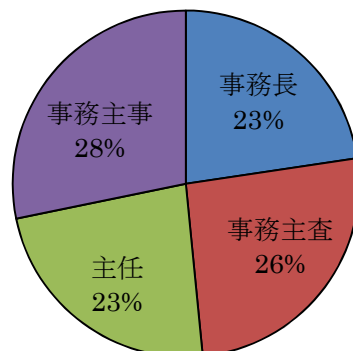
今回の研究を進めるにつれ、沖縄本島と離島のイメージのギャップや日々の仕事に対する見られ方を実感することができました。そのうえで、私たちの感じる、伝えたい事を発表できたのは大変良い機会であるように感じています。

実際に勤務した多くの事務職員は離島経験のない皆さんと同じような不安を抱いて赴任してきています。しかし、実際に離島に勤務してみて、離島で困ったこと、大変な経験も含め、多くの事務職員が離島勤務をして良かったと回答しています。「住めば離島でも都」安心して、異動希望を出してください。

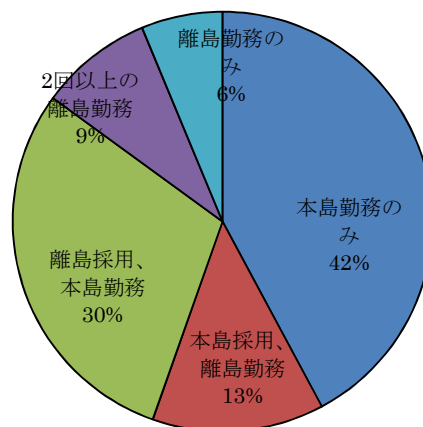
この発表を聞き、少しでも離島地区に対し以前よりも良い印象や、興味を持ち、離島地区が「気になる存在」になっていただけたなら幸いです。

その他、アンケート結果

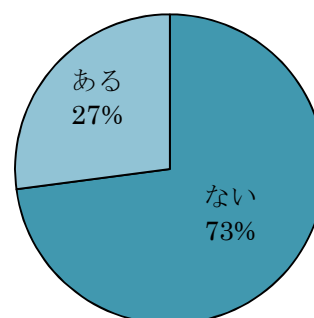
1. 全体の職名別割合



2. 勤務経験別アンケート集約



3. 離島異動を希望したことは？



離島地区異動を希望しない理由は何ですか？（複数回答可、イメージによる回答でもかまいません。）

（生活面）記述式回答

- ・祖母、母と同居しているため
- ・家庭持ち、夫が民間企業

- ・子育てに手がかかるため
- ・娯楽が少ない、プライベートがなくなりそう
- ・本島の親戚、友人、地域との付き合いが制限される
- ・病院に不安。専門科は沖縄本島にあるため。医療体制への不安
- ・引っ越しのお金・時間が大変。赴任旅費は単身だと明らかに足りない
- ・異動内示が遅いので良い物件がない
- ・持ち家のため自宅が空き家になる
- ・気軽に帰れない
- ・酒の席が増える
- ・家庭を持つと配偶者・子ども、年を重ねると親の介護等理由が増える

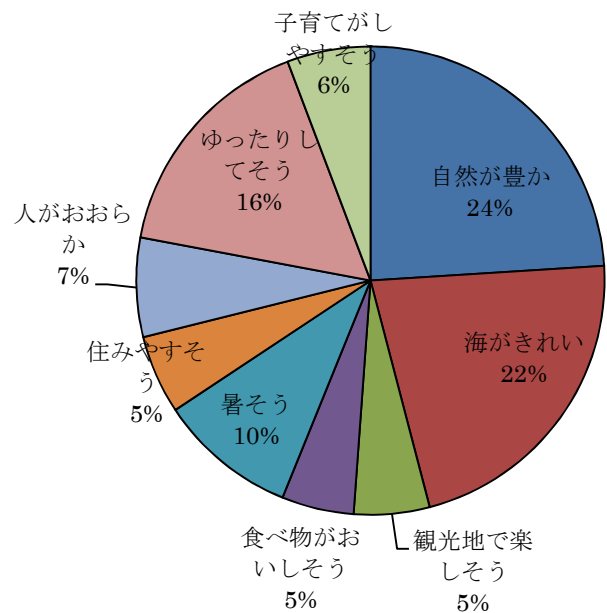
(仕事面) 記述式回答

- ・毎年のように新採・臨任の指導
- ・離島出身のため沖縄本島に戻れなくなるのでは
- ・当時は異動対象が5年であった
- ・業者が限られるため、入札や随契が大変
- ・総合的な経験が足りない
- ・新規採用時に離島地区経験だが、同期メンバーとも意見交換できなかった
- ・業務に関する正しい事例、情報、例規等の整理が非常に遅れていた
- ・経験者が少ないため、業務多忙

離島地区異動を希望したことが「ある」と回答した方へ
離島地区異動を希望した理由は何ですか？(記述式)

- ・若いうちに行きたかった
- ・田舎の方が好き
- ・離島地区勤務はお金が貯まると聞いたので…
- ・子どもが小学校就学前に自然豊かな場所で子育てをしたかった。八重山生活は充実していた
- ・離島を抱える県職員としてへき地への勤務を支えたいとの使命感
- ・へき地経験により特昇及び特手当があったため
- ・離島地区での経験はこれから仕事をする上で視野が広がり、役立つと思ったから

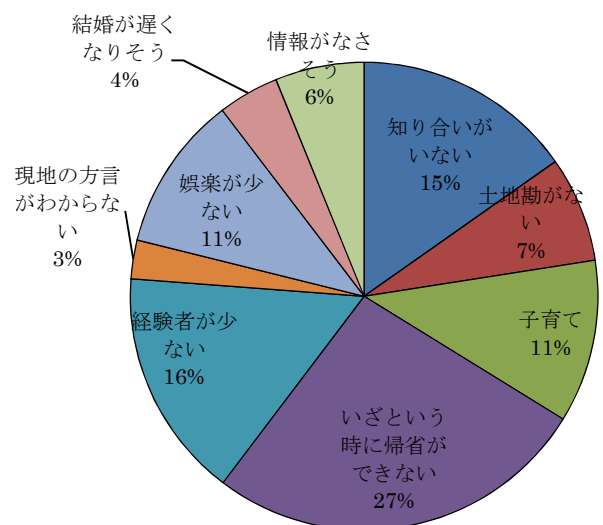
4. 仕事面以外のことで離島にどのようなイメージを持っていますか？(選択肢回答)



(記述式回答)

- ・豊かな地域の歴史文化がある、自然、音楽、芸術など体験してみたい
- ・いろいろ不便そう
- ・台風の被害がおおくて大変そう
- ・何かと不便。物価が高い
- ・地域全体の結束力が強く、協力的である

5. 離島勤務に対する不安があるとする と何ですか？



(記述式)

- ・ 共働きで配偶者の転職
- ・ 医療関係
- ・ 研修の機会がない
- ・ 子育てのサポートをしてくれる人がいない
- ・ 現在の生活スタイルを変えないといけない
- ・ 休日にする事がない
- ・ 子どもの転校、単身赴任、一家転住の選択
- ・ 台風時の食料事情
- ・ 指導する職員への負担。経験不足等から間違った事務処理があるのでは
- ・ 沖縄本島との仕事の力量に差が出る

離島地区希望者が増えるにはどうしたら良いと思いますか。また、こういった条件なら希望しますか？(記述式)

- ・ 勤務年数の長い事務職員が配置されていれば
- ・ 親しい知人がいれば
- ・ 研修を増やす
- ・ 離島の良さ、楽しさのアピール
- ・ 生活に役立つ情報提供
- ・ 不便の解消
- ・ 職員住宅の充実
- ・ 給与・手当の充実
- ・ 離島地区に関して誤解を受けているイメージがあると思うので、解消していくこと
- ・ 強制的人事配置
- ・ 経験者（主任、事務主査）の配置
- ・ 住宅探しや保育園探しのサポートする窓口があれば
- ・ 原則、新規採用者を離島地区勤務から外す

沖縄本島採用で良かったと思う事(記述式)

- ・ 研修に参加しやすい。人数も多いので有意義であった
- ・ 生活の根拠地を固定できる。生活面での安定。家族のケア
- ・ 近隣校との情報交換。
- ・ 先輩に囲まれ、仕事を教えてもらえる
- ・ 新規採用時は残業したが、実家だったため生活面で助けられた
- ・ 慣れた地域での勤務のため離島よりはストレスが少ない

- ・ 行政研修等に希望(参加)しやすい

異動が離島地区と聞いたときは…(記述式)

- ・ ショックだった。希望外。行きたくない。
- ・ 行きたくない。しかし本務採用のため、3年間は頑張るしかない
- ・ 親の介護、婚期が遅れる、いろんな不安があり、1日中泣いた
- ・ 初任校の離島地区は嫌だった。2校目以降が良かった
- ・ 県職員として離島地区勤務は当然と思った。
- ・ 寝耳に水という感じであったが、しょうがない
- ・ 離島に行ったことがなかったので楽しみにも感じた
- ・ 住むところがあるのか、探せるのか心配だった
- ・ 住んでいた地域から出たこともなく、仕事の経験も少ないため不安を覚えた

離島地区経験者の語る離島のメリット&デメリット(記述式)

メリット面

- ・ 離島それぞれの人、習慣、文化、課題などに触れることでその後の自分の仕事に厚みが増す
- ・ 特別昇給、手当等⇒貯金が出る
- ・ 離島内の各学校間が非常に協力的で、情報交換等交流が盛ん
- ・ 渋滞がなく、20分圏内で生活できる
- ・ 職員間のイベント、地域イベントが多い
- ・ 子育てには良い環境であった
- ・ アウトドアが好きな人には向いている

デメリット面

- ・ 仕事面で指導する先輩事務職の不足
- ・ 娯楽が少ない
- ・ 台風対策が大変。食料確保も困難
- ・ 島特有の事例が多く、他校に関係事例がない
- ・ 取引業者が少ない⇒競争がない
- ・ 沖縄本島の研修に気軽に参加できない
- ・ 若い職員が多いため、支部の活動が弱い

勤務する前の印象と実際に勤務してみてもの印象はかわりましたか？変わったとしたら、どう変わりましたか？（記述式）

勤務前

- ・知り合いもいない、仕事も大変そう
- ・生活面で不便（病院やスーパーマーケットなど）
- ・田舎で生活しにくい
- ・飲み会が多い
- ・現在文明から隔絶された自然の中での生活
- ・新規採用、臨時的任用職員が多く不安
- ・離島の住民、職員が受け入れてくれるか

勤務後

- ・勤務後、しばらく離れると離島も悪くない
- ・職場内外で多くの人と出会うことができ、沖縄本島では経験できない事も経験できた
- ・病院やスーパーマーケットなど生活に大きな支障はなかった
- ・泣く泣く異動したが、3年間公私ともに楽しく過ごし、異動するときは寂しかった
- ・新採、臨任ばかりでキツイ
- ・職場環境は悪くないが、仕事は大変
- ・挨拶を欠かさない、良い生徒ばかりだった
- ・名護-那覇より石垣-那覇が短時間
- ・仕事上の情報が少ない。沖縄本島との情報の差
- ・台風が大変。物価は高い

仕事面で沖縄本島と離島地区の「違い」「差」はどう感じましたか？（記述式）

- ・事務職員の年齢層バランスが悪く、仕事が雑になっている
- ・事務主査から仕事を引き継いだら、様式・通知に基づいた処理をしており、離島地区の経験の少なさ、情報の少なさを感じた
- ・何かにつけて沖縄本島中心（締め切りなど）
- ・業者の選択肢
- ・業務内容の質と量
- ・沖縄本島は年齢や職階のバランスがとれている
- ・情報量の多さと入手のし易さ
- ・溶接等資格を取った
- ・職員が船舶免許、スキューバと楽しそうだった一緒にやれば良かった
- ・三線、郷土芸能などを習えば良かった

- ・自宅の建築費用貯金できた

離島ならではのあなたのエピソードがあれば教えてください（記述式）

- ・釣りが好きで、沖縄本島より楽しんだ
- ・船での通勤。港での職朝、近隣校でシステムを使わせてもらったり楽しかった
- ・職員同士の仲がよく、ビーチパーティを毎学期行っていた。今でも付き合いは続いている
- ・部落行事への参加。重要無形民俗文化財：節祭りやイノシシ猟など
- ・教職員住宅の定期的な草刈り作業が大変だったが、楽しかった
- ・職場の方との親密なコミュニケーション
- ・離島ならではの文化にふれる
- ・台風接近で船がとまり、自生しているエンサイを食べたこと
- ・沖縄本島へ頻繁に戻ると出費がかさむ

せっかくの離島地区勤務、取り組んだことはありますか？またはこれをやっておけば良かったと思うことはありますか？（記述式）

- ・離島周辺の島巡り
- ・地域のお祭りへの参加
- ・島内をサイクリング、ダイビング、地域特有の祭りへの参加

現在離島勤務、これから離島地区勤務の方へアドバイスがあれば（記述式）

- ・事務主査、主任に経験していただき、離島地区事務職員の環境改善に取り組んでいただきたい
- ・先入観にとらわれずに生活すること。旅行では味わえない地域住民の世界観を知ることができる
- ・県職員として、様々な場所で勤務できることは、むしろ喜ばしいし、魅力的だと思う
- ・自然に囲まれ、子育てもしやすい環境である。
- ・異動できる状況にあるならば不利益なことは少ない
- ・3年間はあっという間に過ぎる

※記載されている情報はすべて平成27年度時点のものです。現在と異なっていることもあります。